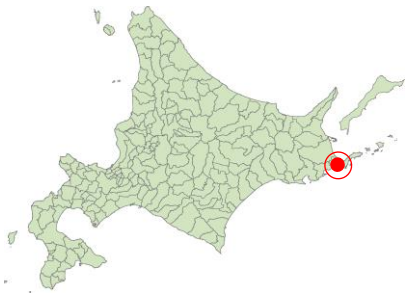


豊かな干潟の恵みの再生を目指して 湾中地区干潟保全協議会

根室湾中地区について



湾中地区の位置

湾中地区は、北海道の東端、根室半島の付け根に位置し、地区内にはラムサール条約に指定された野鳥の宝庫である温根沼、風連湖があります。湾中地区の漁業はかつてサケ・マス流網などの沖合漁業が主力でしたが、200 カイリ規制の実施に伴い、現在、沿岸漁業を主力に営んでいます。地区の海岸線には、これまでに

造成した人工干潟が複数あり、干潮時には沖合まで砂州となり、天然のアサリやホッキガイが取れることでも有名です。

干潟の現状について

汽水湖である温根沼、風連湖のある春国岱の干潟では、アサリやホッキガイが取れる潮干狩りの場として利用されていました。

しかし、北海道東方沖地震による地盤沈下が起きたり、近年、来襲した台風や低気圧により砂が削られて干潟の面積が減少しています。また、地盤沈下に伴ってアマモが繁茂してしまい、アサリの生息に不適な底質となるほか、さらに異常発生しているヒトデによってアサリやホッキガイなどの二枚貝の食害が発生するなど、様々な問題が顕在化しています。本地区の干潟は地形変化や海況変化に伴い、以前は利用していたエリアのアサリ資源が減少していることから、干潟の維持・保全活動を通じて、資源の回復を目指しています。



地盤沈下によるアマモの繁茂



ヒトデの異常発生

湾中地区干潟保全協議会について

設立：平成 22 年 05 月 14 日

目的：干潟の維持・回復、保全を図り、干潟生産力の向上を目指す。

体制：干潟を利用する漁業者、根室湾中部漁業協同組合職員(120 名)

活動：活動項目及びスケジュールを下記に示す。

活動組織の活動項目とスケジュール

	7	8	9	10	11	12
砂泥の移動防止（土嚢設置）					○	○
客土		○			○	○
耕うん				○		
稚貝密度管理・アサリ資源量調査		○				
食害生物の除去（ヒトデ、ツブ）			○			
人的漁獲による干潟の攪拌				○		

豊かな干潟を取り戻そう

活動組織は以下の様な干潟の維持・保全活動に取り組んでいます。

- ① 土嚢設置による砂泥の移動防止
- ② 客土による沈下地盤のかさ上げ
- ③ 耕うんによる底質の改善
- ④ 客土区への稚貝の放流によるアサリ密度管理・資源量調査
- ⑤ 食害生物の駆除（ヒトデ、ツブ）
- ⑥ 干潟の攪拌、アサリの間引き



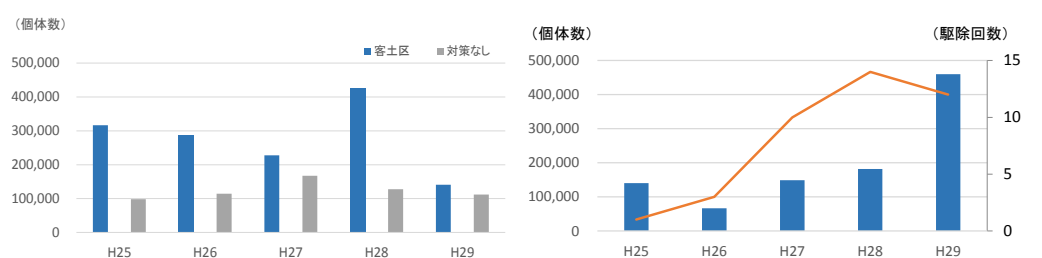
活動組織による干潟の維持・保全活動

干潟保全の効果について

湾中地区ではアサリ資源量調査を実施しており、温根沼内の 1 区 (6.3ha) において、平成 22~24 年に客土区 (2.5ha) が設置されました。

1 区内の客土区の 7 区画(1 区画は 50m×50m)と客土無しの 8 区画の全殻径のアサリ個体数の平均値を比較したところ、平成 25~29 年において全て客土区で多く (1.3~3.3 倍) みられました。また、平成 25~29 年にヒトデ駆除 (駆除回数 1~14 回/年) を行った 1 区の滞筋前面の 4 区画において、同じく個体数の平均値を比較したところ、駆除回数を増やした平成 27 年以降では増加する傾向がみられました。

これより、干潟の維持・保全の取組 (客土及びヒトデ駆除) による効果として、アサリ資源の生産力の向上効果が確認されました。



客土の有無での平均個体数(50m×50m) ヒトデ 駆除区 の平均個体数(50m×50m)

また、昨年度開催した検討会より、干潟の生産力回復に向けた管理手法として、漁獲による干潟の攪拌とアサリの間引きが効果的であるとの助言を得ました。そこで、新たな取組みとして今年度(10月4日)は 1 区の客土区において、2.4t(30 人×80kg) のアサリを漁獲しました。今後は漁獲したエリアの資源量の変化に着目するとともに、これまでの干潟保全活動の取組に加え、実施していく予定です。